

## グループウェア活用による校務の情報化に関する研究（第二年度）

～NetCommons の活用を通して～

|            |      |        |
|------------|------|--------|
| 福島県教育センター  | 指導主事 | 関根 毅   |
| 福島県立石川養護学校 | 教諭   | 阿部 昌弘  |
| 石川町立石川中学校  | 教諭   | 渡邊 晋一郎 |
| 福島県立原町高等学校 | 教諭   | 亀田 光弘  |

### 1 研究の趣旨

「教育の情報化に関する手引」（平成 22 年 10 月 文部科学省）において、教育の情報化は「情報教育」「教科指導」におけるICT活用「校務の情報化」の3つをとおして教育の質の向上を目指すものである。

また、「校務の情報化」の目的は、効率的な校務処理とその結果生み出される教育活動の質の向上にある。そのためには、教員一人1台のコンピュータの配備や校内のネットワーク化は校務の情報化に必須であり、校務支援システムやグループウェアの導入により様々な効率化が図られる。

教育情報のデジタル化やデータベース化により、情報を共有し、県内のシステムを統一することで、教職員の時間的、技術的な負担が軽減され、授業のための教材研究や児童生徒と向き合う時間の確保が可能になり、教育の質の向上に繋がるものとする。

NetCommons（国立情報学研究所開発）は、CMS \*<sup>1</sup>、グループウェア、LMS \*<sup>2</sup>の3つの機能を有しており、トータルで使用することで、操作の共通性や機能の有効性などにおいて効果が得られると考える。

情報教育チームでは、これまで取り組んできたグループウェアでの活用とともに学校WebサイトにおけるCMS活用について、協力校での校務の情報化に関する研究と検証を進めることにした。この研究を踏まえ、NetCommons を福島県全体の情報共有基盤としてプラットフォーム化し、さらに教育の情報化を推進する。

### 2 研究の概要

\*<sup>1</sup> CMS : Contents Management System \*<sup>2</sup> LMS : Learning Management System

- (1) NetCommons 活用についての研究（NetCommons 導入マニュアル、導入・運用支援）
- (2) NetCommons によるグループウェア導入の構築環境の検証（OS \*<sup>3</sup> アップデート）
- (3) 研究協力校や各学校におけるグループウェア及びCMS活用に関する研究（GW \*<sup>4</sup> CMS）
- (4) 情報共有基盤システムのプラットフォーム化に向けた研究
- (5) 被災県として、児童生徒の安全・安心のための情報伝達手段の研究

### 3 成果と今後の課題

\*<sup>3</sup> OS : Operating System \*<sup>4</sup> GW : グループウェア

#### (1) 研究の成果

① 研究協力校における NetCommons 活用実践事例（約30校の小・中・高校、特別支援学校、教育委員会に導入）

- ◇ 福島県立石川養護学校 …… 平成22年度からGW導入。長期安定運用
- ◇ 石川町立石川中学校 …… GW、学校Webサイト(CMS)導入。記事の更新頻度の増加
- ◇ 福島県立原町高等学校 …… GW、学校Webサイト(CMS)導入。きめ細やかな情報発信

② 情報共有基盤システムの導入支援と運用支援体制

NetCommons 導入時の技術支援や研修会の実施。  
福島県版 NetCommons フォーラムによる対応などサポート体制の確立。

#### (2) 今後の課題

- ① 第6次福島県総合教育計画を実効性のあるものとするためには県全体の情報共有基盤としてプラットフォーム化することで、児童生徒と保護者に安全・安心の提供、並びに開かれた学校づくりに繋げたい。
- ② 東日本大震災の経験から、災害に強いサーバのクラウド化を実現し、保護者や児童生徒及び地域に対する連絡体制を整備する必要がある。

震災後、児童生徒の心のケア等に係わる対応も必要なことから、教員が子どもと向き合う時間を少しでも多く確保でき、教育の専門職としての本分を優先できる教育環境が重要である。また、災害時に避難所となる学校が地域のコミュニティの拠点として情報発信能力を高めることは大切となる。このことを踏まえた校務の情報化の推進が重要であるとする。

